

札幌大学の学生が田学連携でインターンシップ

田舎と大学が連携して地域活性化を目指す「田学連携事業」の一環として、札幌大学の学生2人が8月21日から26日までの6日間、軽舞発掘整理事務所でインターンシップ(職業体験)を行いました。

2人は、土器の拓本作業などに苦勞しながらも丁寧に取り組みました。越崎聖也さん(2年生)は「実物を扱うので緊張で手が震えましたが、地域の方とのコミュニケーションの重要性など学芸員を目指していく上で大切なことを学びました。機会があればまた来たいです」と話していました。



こども園での思い出を色鮮やかに 塗装業者有志が子どもたちと遊具にペンキ塗り

全国の塗装会社が集まりボランティア活動を行う団体「塗魂ペインターズ(宮嶋祐介会長)」の約30人が8月21日にこども園つきみを訪れ、年長のきりん組の園児20人と園庭の遊具をペンキで塗り直しました。

子どもたちは衣服や髪の毛にペンキを付けながら、色あせていたシーソーなどの遊具を楽しく着色しました。宮嶋会長は「皆さんが喜んでくれるのを楽しみに全国から集まりました。皆さんの楽しい思い出になると嬉しいです」とあいさつしていました。



自然の力に圧倒 日高幌内沢見学会

8月25日、北海道胆振東部地震によって大規模な山体移動が発生した日高幌内沢の見学会が、道内の地質地形研究者で構成される最終間氷期勉強会および石狩沖積低地研究会の主催で行われ、町内外から約70人が参加しました。

最終間氷期勉強会代表の岡孝雄さんら専門家は地形図や地層を指しながら、日高幌内沢の山体移動は高さ約50mの山塊が約300mにわたり移動するという大規模なもので、地形・地質学的にみても非常に珍しいことなどを参加者に説明。参加者は眼前に広がる光景に息をのんでいました。

参加した山田忠夫さん(浜厚真・74歳)は、「ここまで大規模に山が動いているとは想像していませんでした。まさに目からうろこが落ちたような思いで、参加してよかったです」と話していました。



平和への願いを込めて 戦没者追悼式を開催

8月26日、総合福祉センターで戦没者追悼式が行われ、遺族や来賓など約60人が参列しました。黙とうや献花などを行い、戦争で尊い命を落とされた方々をしのびました。

町遺族会の加勢敏和会長は「戦争の悲惨さと多くの尊い命が犠牲となったことを次の世代に語り継ぐことが私たち遺族の務め。わが国の安寧と繁栄、戦争のない平和な国際社会の確立を強く願っています」と述べていました。



地域全体でこれからの厚真の教育を考える 厚真町教育フォーラムを開催

7月26日、総合福祉センターで令和元年度厚真町教育フォーラムが開催され、小中学校の教員や保護者、地域の方など約80人が参加し、町のこれからの教育や小中一貫教育のあり方について話し合いました。

当日は3部構成で行われ、はじめに町小中一貫教育推進委員会井内宏磨委員長が町の小中一貫教育全体構想の骨子案について説明。第2部のシンポジウムではパネリストたちが小中一貫教育の意義、昨年度に全市一斉導入した北広島市の事例や、全国・全道の実施状況を紹介しました。

続いて行われたワークショップでは、ふるさと厚真に学ぶ教育を進めるためにどのようなことができるかをグループに分かれて討議。「あつまるねつなどの取組を広めることで地域の方が教育に関わる機会が増える」、「英語教育や体験型学習など町の特徴的な取組の成果を子どもが発信する機会を作ると子どもの自信につながる」など活発な意見が交わされていました。



元気を音楽にのせて～福島からキックオフ～ 南相馬市の子どもたちによる演奏会

福島県南相馬市の小中学生によるマーチングバンド「Seed's+」の演奏会が8月13日、総合福祉センターで開催されました。

これは、東日本大震災で被災した子どもたちと支援者が、町に元気を届けるとともに震災から8年が経過したふるさとの姿を伝えようと企画されたものです。

演奏前にはメンバーによる福島の現状報告会としてSeed's+の歩みと想いを描いたドキュメンタリー映画MARCHの上映会が行われました。

町民吹奏楽団との共演ではジャズの名曲「シング・シング・シング」が演奏され、会場は来場者約230人の大きな手拍子に包まれました。



町民の生活実態を聞き取り 旭川大学コミュニティ調査実習

8月20日から3日間、旭川大学2～3年生の17人が、町民の自宅などを訪れて生活の様子を聞き取り、地域の実態や課題を検討する調査実習を行いました。

町での調査は昨年から行われ、今年度は前回の「農村生活の魅力」、「子育て環境に対する意識」の調査結果を踏まえ、「地域コミュニティの維持」について調査。4班に分かれて豊丘地区に住む33世帯に、移住者との関係をどのように構築していくかなど聞き取り調査を行いました。調査結果は来年1月までにまとめ、町内で報告会を行う予定です。



写真提供：旭川大学